

民は加羅が引き受けるという状況下にあった。しかし三年が経過しても葛城襲津彦は、弓月君の民を連れて倭国に渡来できなかった。

応神天皇 16 年 8 月、新羅による妨害の危険を除いて弓月君の民の渡来を実現させるため、平群木菟宿禰 と的戸田宿禰が率いる精鋭が加羅に派遣され、新羅国境に展開した。新羅への牽制は功を奏し、弓月君の民が渡来した。

「Kara」とは、古代蒙古語で山麓や川岸に集まる村の意である。

### 3.1 弓月君の故郷 弓月国



弓月君は朝鮮半島を経由して渡来している。秦氏の故郷、弓月国(クムユエ)は中央アジアのカザフスタン内にあり、東の一部がシンチャンウイグル自治区にかかっている。天山山脈のすぐ北側に位置し、南にはキルギスタンが接する。弓月国はシルクロードの北方ルート上にある。バルハシ湖の南、イリ川付近である。弓月国の人々も、万里の長城の苦役に耐え切れず日本へ渡来した。弓月君は、120 県の大集団を率いての渡来であった。

1084 年(元豊 7 年)成立。『資治通鑑』全 294 巻。巻第 199 に弓月の記録がある。弓月国を発見したのは言語学の佐伯好郎氏(第五高等学校(現熊本大学)教授)である。

秋、七月、西突厥沙鉢羅可汗寇庭州、攻陷金嶺城及蒲類縣、殺略數千人。詔左武侯大將軍梁建方、右驍衛大將軍契苾何力爲弓月道行軍總管、右驍衛將軍高德逸、右武侯將軍薛孤吳仁爲副、發秦、

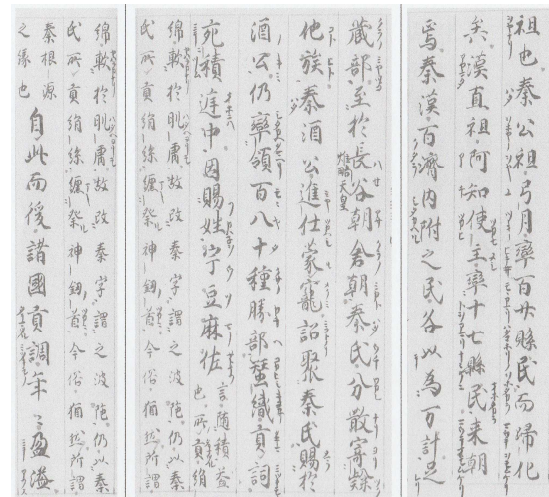
成、岐、雍府兵三萬人及回紇五萬騎以討之。

秋、七月。西突厥の沙鉢羅可汗が庭州へ来寇し、金嶺城と蒲類県を攻め落とし、数千人を殺略した。左武侯大將軍梁建方と右驍衛大將軍契苾何力を弓月道行軍総管として、右驍衛將軍高德逸と右武侯將軍薛孤吳仁を副官とし、秦、成、岐、雍の府兵三万人及び回紇五万騎を徴発してこれを討伐しよう詔が降りた。

## 4 807 年の記録 『古語拾遺』

### 宇豆麻佐(ウヅマサ)

『古語拾遺』は平安時代の神道資料である。齋部広成が大同 2 年(807)に編纂した。全 1 巻。古代の齋部(いんべ)氏の由緒を記した歴史書である。



長谷朝倉朝(雄略天皇)に至って、秦氏を分散して他の一族にそれぞれ隷属させられていた。秦酒公は進んで仕え寵愛を受け、秦氏を集めて、酒公に賜う詔を受けた。彼は百八十種の勝部を率いて蚕を飼い、織物を織り、貢物を奉って庭中に積み上げた。それにより、宇豆麻佐と言う姓を賜った。宇豆麻佐と言うのは貢物を積むままに埋もれた事である。奉るところの絹・綿が肌膚(はだへ)に柔らかで故に秦の字を読んで之を波陀(ハダ)と言う。また、秦氏の奉る所の絹を以て神を祭る劍の柄を巻き、今の世にも猶然り。いわゆる秦の機織の起こりである。